

授業科目名： 初等教科教育法 (社会)	教員の免許状取得のため の 必修科目（選択科目）	単位数： 2 単位	担当教員名：南 ^{みなみ} 哲朗 ^{てつろう} 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)	小学校教諭として勤務経験を持つ教員が、社会科における指導内容や指導方法について指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）「社会」		
「学位授与の方針」との関係			
星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。			
A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。			
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。			
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。			
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ：			
◎ 学習指導要領に示された目標および内容を理解することができる。			
◎ 社会科学学習指導案の作成の手法、および1時間の授業の組み立て方を修得する。			
◎ 教材化および社会科授業に求められる知見やスキルを修得する。			
授業の概要：			
学習指導要領に示された目標や内容を的確にとらえ、子供の問題解決的な学びに即した教材や単元づくりに関する見識、および学習指導案作成や授業実践に関する知見やスキルを修得する。スクーリングでは班討議などアクティブな学びを可能な限り取り入れる。			
○ 学習指導要領に示された目標と内容について、構成などの的確な読み取り方を修得する。			
○ 「主体的・対話的で深い学び」と「問題解決的学習」との関連をふまえた教材化、単元づくり、1時間の授業の組み立て方、資料づくりなどの手順と方法を修得する。			
○ 実際に学習指導案を作成する活動を通して、学習指導案の意義、作成手順等を修得する。			
○ 板書や発問、資料作成、子供理解の方法等、授業実践に関するスキルを修得する。			
○ 学習指導案作成および授業実践に求められる情報通信技術の活用のあり方を学ぶ。			

授業計画

- 第1回：オリエンテーション。社会科の特性と社会科授業に求められる基本的な事項を概観する。
- 第2回：社会科学習指導要領に示された各学年の学習内容の配列や系統性をとらえる。また、教科目標の構成と趣旨、学習指導要領の読み取り方、などを理解する。
- 第3回：授業づくりの基本と方法①。地域素材の教材化の意味とその手法を理解する。
- 第4回：授業づくりの基本と方法②。社会科における単元構成や単元づくりの基本をとらえる。
- 第5回：授業づくりの基本と方法③。1時間の授業の組み立て方、および基本的な事項を理解する。
- 第6回：授業づくりの基本と方法④。教材選定の基本、教材化の具体的手法をとらえる。
- 第7回：「主体的・対話的で深い学び」と社会科における「問題解決的学習」との関連をとらえる。
- 第8回：事例をもとにした単元づくりの演習を行う（指導内容、学習活動、時間数、等）。
- 第9回：授業事例をもとに、教科書や副教材、自作資料及び情報機器等の活用のあり方を理解する。
- 第10回：評価について、長期、短期、授業中の評価方法、および評価の規準と基準を理解する。
- 第11回：自宅学習として進めてきた準備に即して、各自が学習指導案を作成する。
- 第12回：学習指導案作成および授業実践に求められる情報通信技術の活用のあり方を学ぶ。
- 第13回：アクティブラーニングを中心に各自が指導案を作成し、各自が発表する①。
- 第14回：アクティブラーニングを中心に各自が指導案を作成し、各自が発表する②。
- 第15回：各自が作成した指導案を相互に発表し、それについての振り返りおよび討論を行う。
- 定期試験 科目修得試験（R試験）を実施する。

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは第1回～15回をふまえ、アクティブラーニングの手法を用いて進める。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』

参考文献

- 教科書：「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」
- 学習指導要領に示された目標および内容等の読み取り（解釈）に関する書籍およびインターネットによる情報等
- 学習指導案事例や社会科授業実践に関する書籍およびインターネットによる情報等
- 教材化、単元構成、1時間の授業構成等に関する書籍およびインターネットによる情報
- スクーリング資料

学生に対する評価

レポート評価（25％）、スクーリング評価（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。スクーリングにおいては個人の発表などアクティブな学びを可能な限り多く設ける。